

第2章 公園の現状

1. 人口の増加と公園面積の関係
2. 緑の状況
3. 公園の整備状況
4. 公園施設の整備状況
5. 公園の機能
6. 公園の利用状況
7. 地域ごとの特徴
8. 公園をより良くするための4つの視点

chapter

2

1. 人口の増加と公園面積の関係

【人口増加】

- 千代田区の人口は、現行の整備方針が策定された平成19年は44,954人であったのに対し、令和6年時点では68,755人に達しており、約1.5倍の増加となっています。
- 千代田区の特徴的な要素は、昼間人口の多さであり、令和2年度の国勢調査結果では、昼間人口は116万9千人※にのぼります。このため、区民だけでなく、区外からの来街者の公園利用についても考慮する必要があります。(※昼間人口の数値は、国が公表した不詳補完値による。)

【一人あたりの公園面積の減少】

千代田区の公園の面積を区民人口で割ると4.08㎡/人(令和6年時点)になります。

都市部である千代田区では、用地確保の課題があり公園面積を増やすことは難しく、人口が増えると、一人当たりの公園面積が減少するという関係にあるため、道路や公開空地など公共的空間を公園のように使えるようにするといった取組みが必要です。

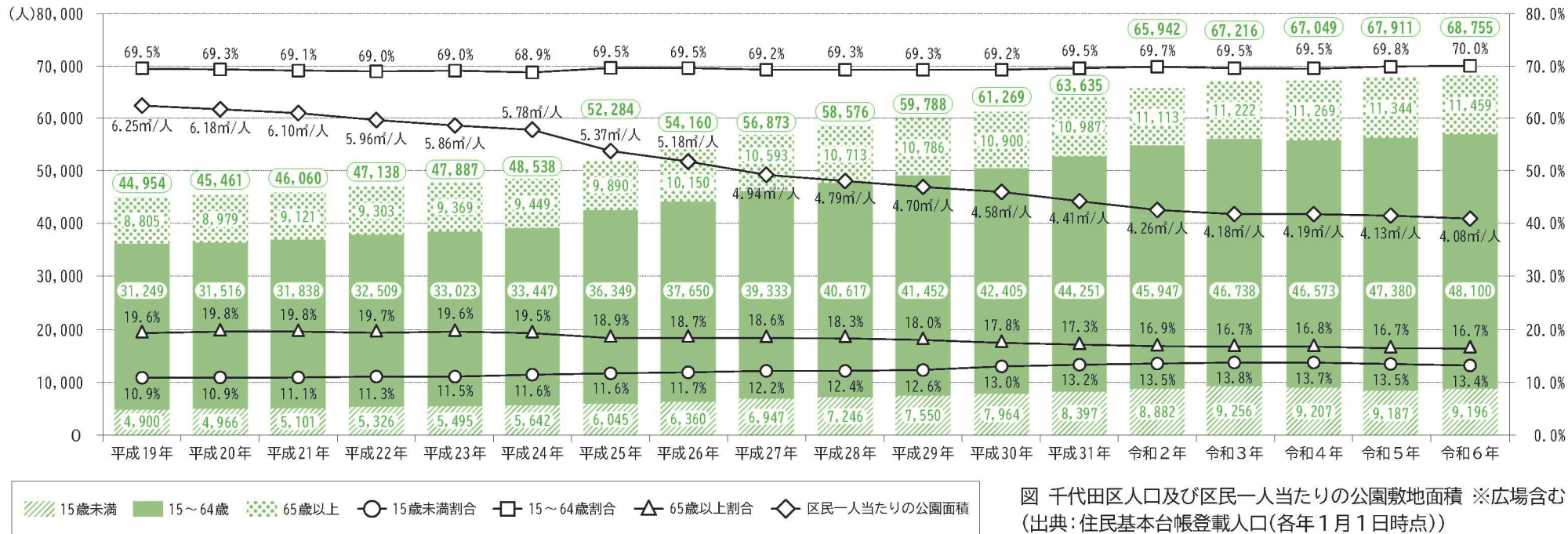


図 千代田区人口及び区民一人当たりの公園敷地面積 ※広場含む
(出典：住民基本台帳登録人口(各年1月1日時点))

2. 緑の状況

千代田区の緑をみると、江戸城は皇居に受け継がれ、区の中央に位置する皇居や北の丸地区を中心とした区内最大の緑地があります。また、日比谷公園、国会議事堂前庭などにまとまった緑が分布しています。緑は生物多様性の保全、ヒートアイランド現象の緩和、雨水の浸透、美しい景観の形成など多様な機能を担っています。したがって緑と都市の調和が重要です。そこで、公園づくりにおいても、周辺の緑地を含めて緑のネットワークの形成に寄与していくことが必要です。

特徴1 緑の分布が多い

- 麹町・番町地域
- 飯田橋・富士見地域

特徴2 緑の分布が少ない

- 神保町地域
- 万世橋地域
- 神田公園地域
- 和泉橋地域

特徴3 緑が点在

- 大手町・丸の内・有楽町・永田町地域



図 緑被区分図 (出典:千代田区緑の基本計画 令和3年7月)

3. 公園の整備状況

(1) 公園の面積と公園施設の設置位置

公園は、現在58箇所であり、約12haの面積となっています。

このうち500㎡未満の公園は、32箇所であり、約半数が小規模公園です。

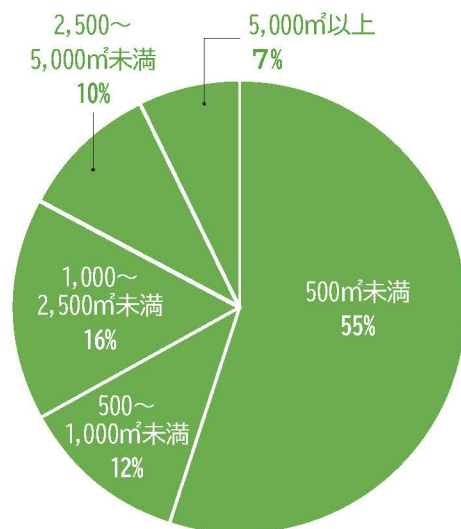
小規模公園には、遊具が少なく、ベンチと植栽が多くなっています。

また、「子どもの遊び場事業」として「ボール遊び」や「道具遊び」にも取り組んでいます。

次のページに、現在の公園でできることをまとめた「できることマップ」を示します。すべり台・ブランコなどの遊具の配置と子どもの遊び場事業の実施状況を表しています。

種別	公園数	面積(㎡)
500㎡未満	32	6,459.46
500~1,000㎡未満	7	4,949.65
1,000~2,500㎡未満	9	16,777.44
2,500~5,000㎡未満	6	19,454.72
5,000㎡以上	4	74,486.14
合計	58	122,127.41

表 公園の面積



(2) 公園の配置と利用しやすい範囲

大きな公園(2,500㎡以上)の配置は、地域間で偏りがみられます。

和泉橋地域では、小規模公園(500㎡未満)が多くなっています。(P15)

子どもの遊び場事業とは

子どもの遊び場事業とは、子ども達を見守るプレーリーダーが、遊びの手伝いや道具の貸出しを行い、時間・場所を限定してボール遊びが行えるなど、自由に楽しく遊べるようにする事業です。



芳林公園での実施風景

千代田区立 できることマップ



ふじみこどもひろば（ボール遊び可）
土・日・祝日（休日）9時～17時
（8月のみ：土・日・祝日（休日）9時～10時、16時～17時）

外濠公園
総合グラウンド内芝生広場
ボール遊び（水）14時～16時

東京中華学校
ボール遊び（日）14時～16時

旧永田町小学校
ボール遊び（日）10時～12時

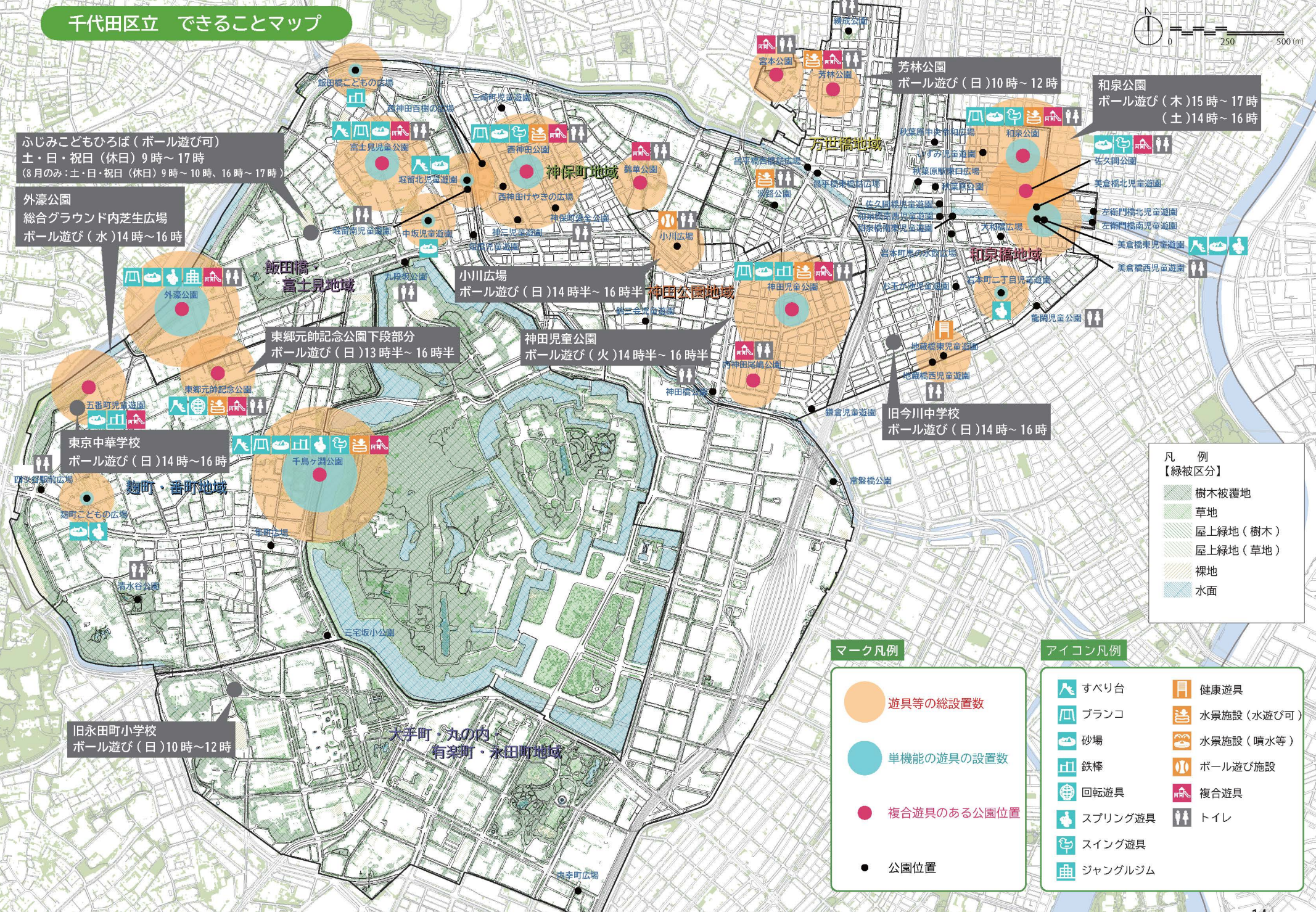
東郷元帥記念公園下段部分
ボール遊び（日）13時半～16時半

神田児童公園
ボール遊び（火）14時半～16時半

旧今川中学校
ボール遊び（日）14時～16時

芳林公園
ボール遊び（日）10時～12時

和泉公園
ボール遊び（木）15時～17時
（土）14時～16時



凡例
【緑被区分】

- 樹木被覆地
- 草地
- 屋上緑地（樹木）
- 屋上緑地（草地）
- 裸地
- 水面

マーク凡例

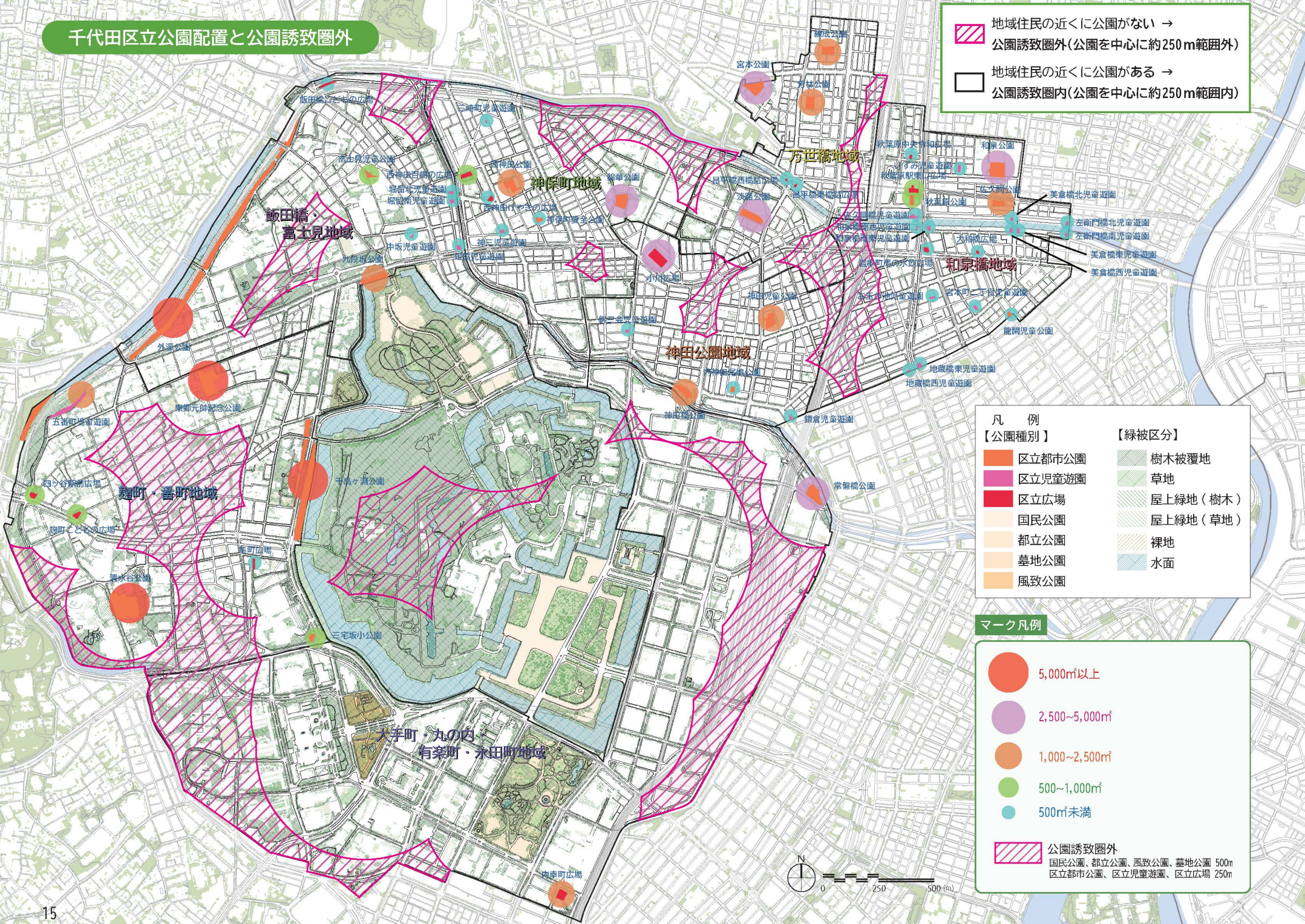
- 遊具等の総設置数
- 単機能の遊具の設置数
- 複合遊具のある公園位置
- 公園位置

アイコン凡例

- すべり台
- ブランコ
- 砂場
- 鉄棒
- 回転遊具
- スプリング遊具
- スイング遊具
- ジャングルジム
- 健康遊具
- 水景施設（水遊び可）
- 水景施設（噴水等）
- ボール遊び施設
- 複合遊具
- トイレ

千代田区立公園配置と公園誘致圏外

 地域住民の近くに公園がない →
 公園誘致圏外(公園を中心に約250m範囲外)
 地域住民の近くに公園がある →
 公園誘致圏内(公園を中心に約250m範囲内)



凡例	
【公園種別】	【緑被区分】
 区立都市公園	 樹木被覆地
 区立児童遊園	 草地
 区立広場	 屋上緑地(樹木)
 国民公園	 屋上緑地(草地)
 都立公園	 裸地
 墓地公園	 水面
 風致公園	

マーク凡例	
	5,000㎡以上
	2,500~5,000㎡
	1,000~2,500㎡
	500~1,000㎡
	500㎡未満
 	公園誘致圏外 国民公園、都立公園、風致公園、墓地公園 500m 区立都市公園、区立児童遊園、区立広場 250m



4. 公園施設の整備状況

(1) 遊戯施設

ブランコ・すべり台・砂場など子ども向けの遊具が設置されている公園は、全体の3割程度(18公園)です。

健康遊具は、1割弱(5公園)です。

次世代を担う子どもの目線を大切にした取組みの推進や高齢者・障がい者なども楽しめるように活用していくことが考えられます。

公園面積	公園数	遊戯施設	
		子ども向けの遊具	健康遊具
500㎡未満	32	5	1
500~1,000㎡未満	7	2	0
1,000~2,500㎡未満	9	5	1
2,500~5,000㎡未満	6	3	1
5,000㎡以上	4	3	2
合計	58	18	5



千鳥ヶ淵公園のブランコ



西神田公園の健康遊具

(2) 運動施設

運動施設は、外濠総合グラウンド(野球場・サッカー場・テニスコート)と、小川広場(フットサルコート)の計2箇所のみで、原則予約が必要です。

現状では、公園内で自由にボール遊びができないので、場所の確保が課題です。

したがって、ボール遊びが可能な場所を創出することも、利用者の満足度向上と機能強化に必要と考えられます。



外濠公園総合グラウンド 野球場・サッカー場



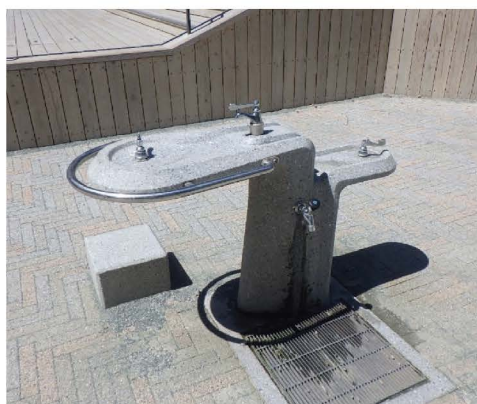
外濠公園総合グラウンド テニスコート



小川広場 フットサルコート

(3) 水飲み・トイレ(便益施設)

水飲みは、22箇所の公園に整備されています。トイレは、24箇所の公園に整備されており、すべてバリアフリートイレです。清潔な状況を保つことが重要です。



バリアフリー対応の水飲み場/東郷元帥記念公園



バリアフリー対応のトイレ/九段坂公園

公園面積(m ²)	公園数	便益施設	
		水飲み	トイレ
500m ² 未満	32	7	6
500~1,000m ² 未満	7	2	2
1,000~2,500m ² 未満	9	6	7
2,500~5,000m ² 未満	6	4	5
5,000m ² 以上	4	3	4
合計	58	22	24

表 便益施設の数

(4) ベンチ・スツール(休憩施設)

ベンチやスツールは44箇所の公園に整備されており、休憩や読書など様々な用途で活用されます。

シェルター(日除け)などを組み合わせることで、居心地のよい場づくりが重要です。



単独で設置されているスツール/錦華公園



シェルターと一緒に設置されているベンチ/東郷元帥記念公園



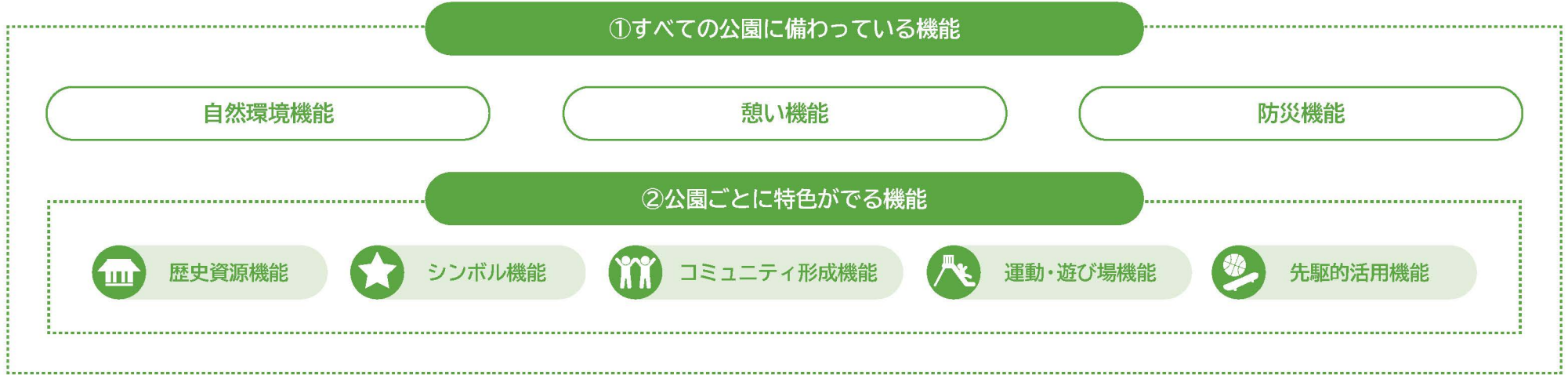
砂場・芝生広場と一体になったベンチ/錦華公園

公園面積(m ²)	公園数	休憩施設		
		ベンチ・スツールなど	野外卓	四阿
500m ² 未満	32	23	1	0
500~1,000m ² 未満	7	3	0	0
1,000~2,500m ² 未満	9	8	0	1
2,500~5,000m ² 未満	6	6	0	0
5,000m ² 以上	4	4	1	0
合計	58	44	2	1

表 休憩施設の数

5. 公園の機能

公園の機能について、以下の①②のように分類しました。



②公園ごとに特色がでる機能



歴史資源機能



地域の歴史を継承する空間

- ・震災復興小公園
- ・神社仏閣に隣接する
- ・歴史的な銅像などがある



シンボル機能



地域のシンボル

- ・日常的に多くの方が利用
- ・地形や立地に特色がある



コミュニティ形成機能

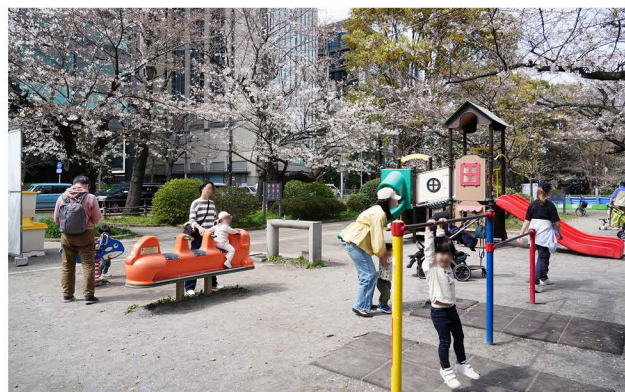


地域の交流の場となり
コミュニティを醸成する

- ・祭りやイベントなどに利用



運動・遊び場機能



子どもの健全な育成や
健康寿命の延伸に寄与する

- ・子ども向け遊具や健康遊具がある
- ・体操、遊びなどができる空間



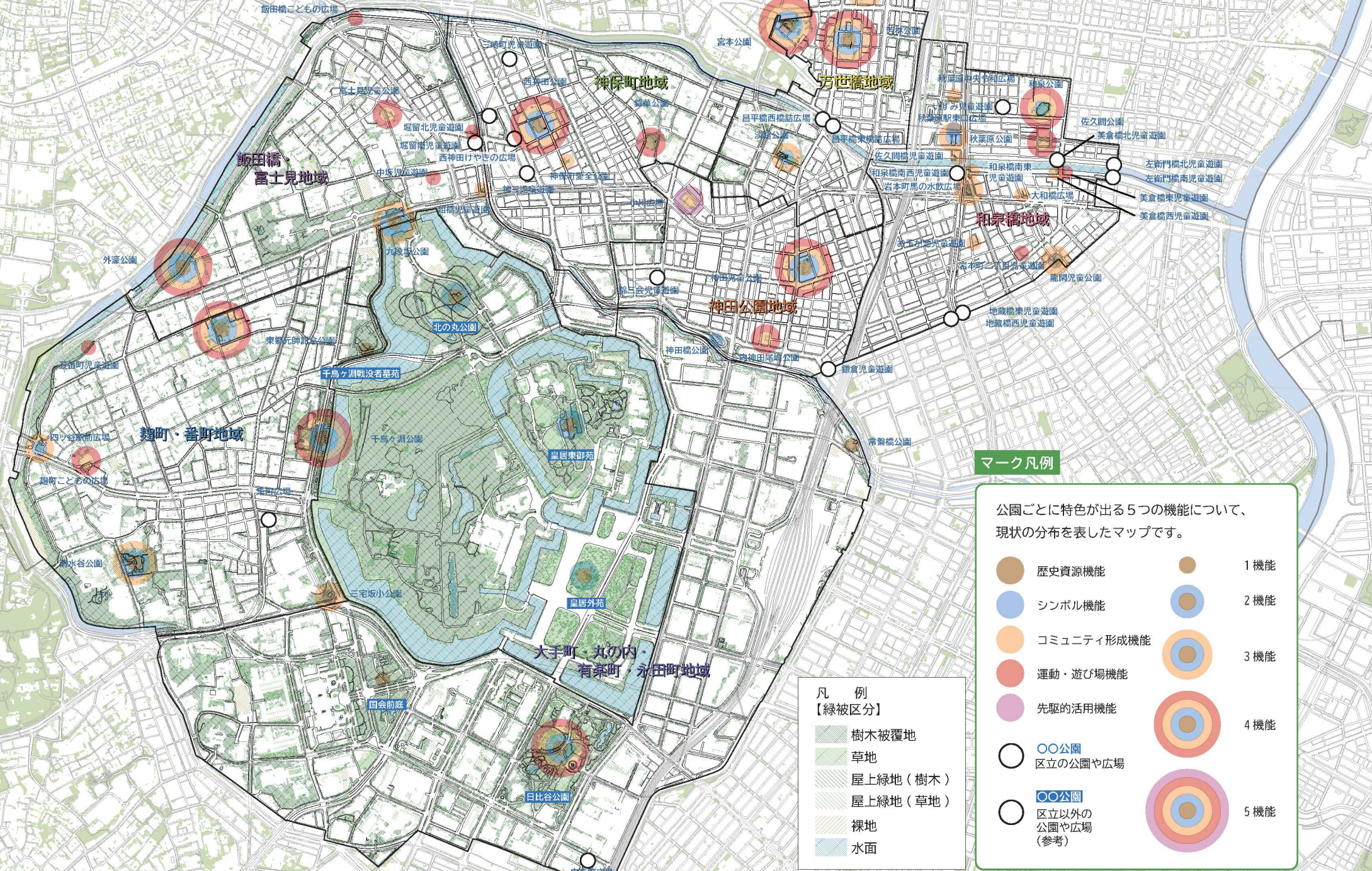
先駆的活用機能



住民のやりたいことを実現し、
地域の活性化を図る

- ・花火、ボール遊び、
スケートパーク、ドッグランなど

公園ごとに特色がでる機能分類マップ



マーク凡例

公園ごとに特色が出る5つの機能について、現状の分布を表したマップです。

- 歴史資源機能
- シンボル機能
- コミュニティ形成機能
- 運動・遊び場機能
- 先駆的活用機能
- 公園 区立の公園や広場
- 公園 区立以外の公園や広場(参考)
- 1 機能
- 2 機能
- 3 機能
- 4 機能
- 5 機能

凡例【緑被区分】

- 樹木被覆地
- 草地
- 屋上緑地(樹木)
- 屋上緑地(草地)
- 裸地
- 水面

6. 公園の利用状況

(1) 公園利用調査の概要

公園利用のニーズや課題を把握するため、右記の調査を行いました。



図 調査対象

①区民無作為アンケート調査

- ・配布総数：2,000人、うち回答数860人(回収率43%)
- ・調査対象：千代田区民(住民基本台帳から16歳以上を無作為抽出)

②小学校児童(保護者)及び中学校生徒、幼稚園・保育施設の保護者、各施設の職員関係者アンケート

- ・配布総数：19,324人、うち回答数6,895人(回収率35%)
- ・調査対象：幼稚園、保育園、小学校、学童クラブ、中学校、福祉施設

③カウント調査

- ・調査期間：令和4年10月3日～17日
平日・休日の2日間
- ・調査時間：午前9時～午後6時
- ・利用者数：平日118,236人、休日108,675人

④ヒアリング調査

- ・ヒアリング数：平日1,082人、休日1,261人

⑤Webアンケート調査

- ・調査対象：公園を利用者しない方
- ・回答数：520件

⑥街頭インタビュー調査

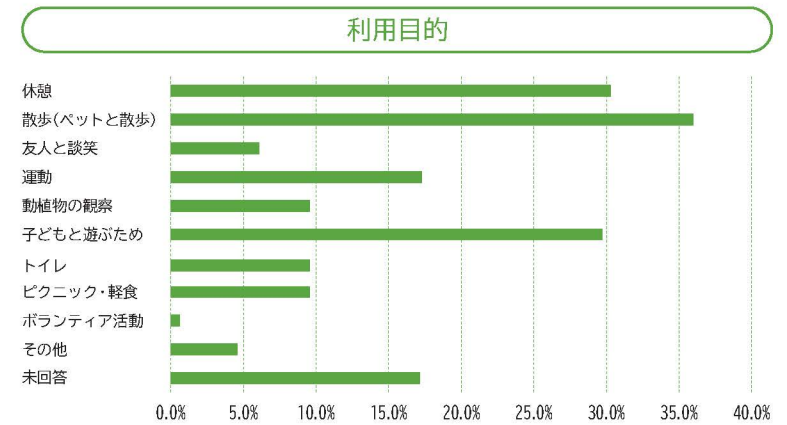
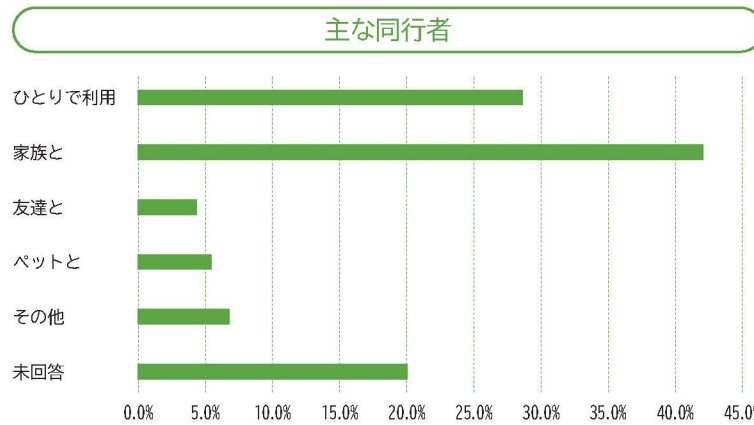
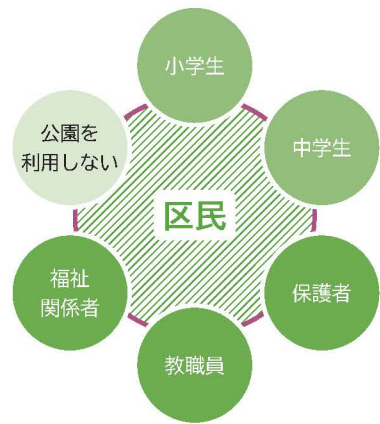
- ・調査対象：公園を利用者しない方
- ・回答数：611件

【主な調査項目】

- ・基本情報(年齢、居住地)
- ・公園の利用頻度、利用目的
- ・公園の広さ、遊具の種類・数
- ・遊びの内容、どんな遊びをして欲しいか
- ・よく行く公園、求める施設、再整備の際に考慮して欲しいこと

(2) 公園の利用状況(区民無作為アンケート調査・カウント調査より)

- ・公園を利用している(週に数回、月に1・2回)と回答した方は、約63%でした。(巻末資料参照)
- ・主な同行者は「家族と」が約42%と最も多く、次いで「ひとりで利用」でした。
- ・利用目的は「散歩(ペットと散歩)」が約36%と最も多く、次いで「休憩」、「子どもと遊ぶため」でした。



- ・利用頻度の多い公園は、千鳥ヶ淵公園と東郷元帥記念公園でした。(巻末資料参照)
- ・面積が小さくても利用者の多い公園(龍閑児童公園)もありました。
- ・面積が大きくても利用者の少ない公園(内幸町広場)もありました。

利用者が多い公園

1) 面積が大きく利用者也多い



東郷元帥記念公園 (7119.43㎡ 平日2206人 休日929人)

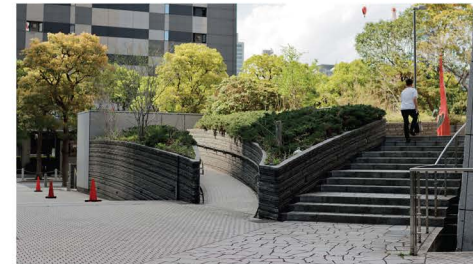
2) 面積は小さいが利用者が多い



龍閑児童公園 (261.61㎡ 平日458人 休日270人)

利用者が少ない公園

3) 面積は大きいが利用者が少ない



内幸町広場 (2596.00㎡ 平日31人 休日32人)

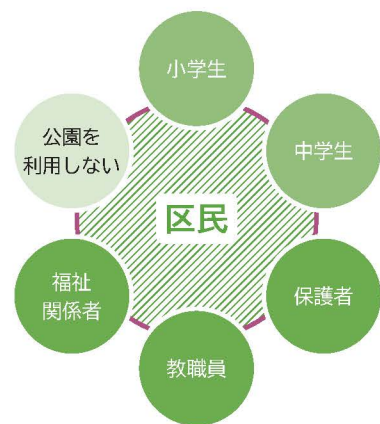
4) 面積が小さく利用者也少ない



中坂児童遊園 (87.92㎡ 平日12人 休日0人)

(3) 公園の満足度について(区民無作為アンケート調査より)

- ・利用頻度の多い公園に対して「不満がある・どちらでもない」が約64%でした。
- ・遊具の充実度については、「不満がある・どちらでもない」が約80%でした。豊富な遊具へのニーズが高いと言えます。
- ・ベンチなどの充実度については、「不満がある・どちらでもない」が約69%でした。



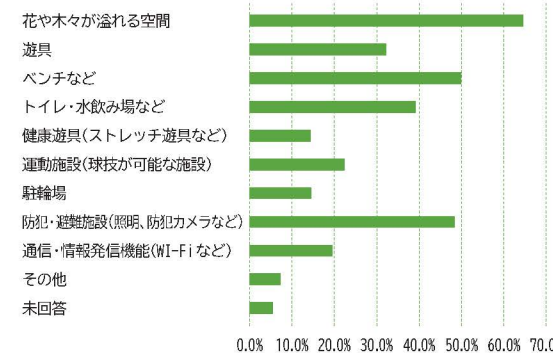
千鳥ヶ淵公園／老朽化の進んでいる遊具

(4) 身近な公園に求めることについて(区民無作為アンケート調査より)

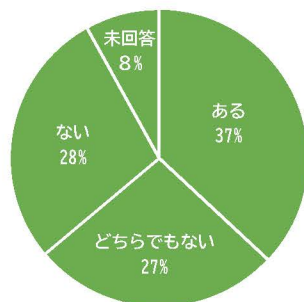
- ・身近な公園に求める施設については、「花や木々が溢れる空間」が約64%と最も多く、次いで「ベンチなど」、「防犯・避難施設(照明、防犯カメラなど)」でした。
- ・再整備する場合に考慮して欲しいことについては、「利用者の意見を聞いた整備をして欲しい」が最も多い結果となりました。(巻末資料参照)



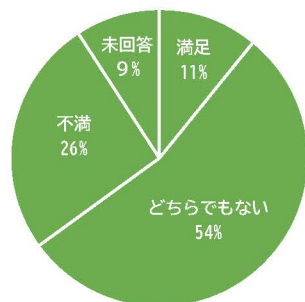
身近な公園に求める施設



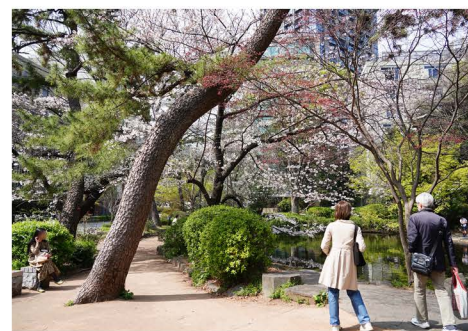
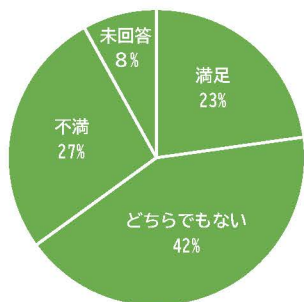
公園への不満



遊具の充実度



ベンチなどの充実度



清水谷公園
／木々や草花、水辺空間など自然環境が充実

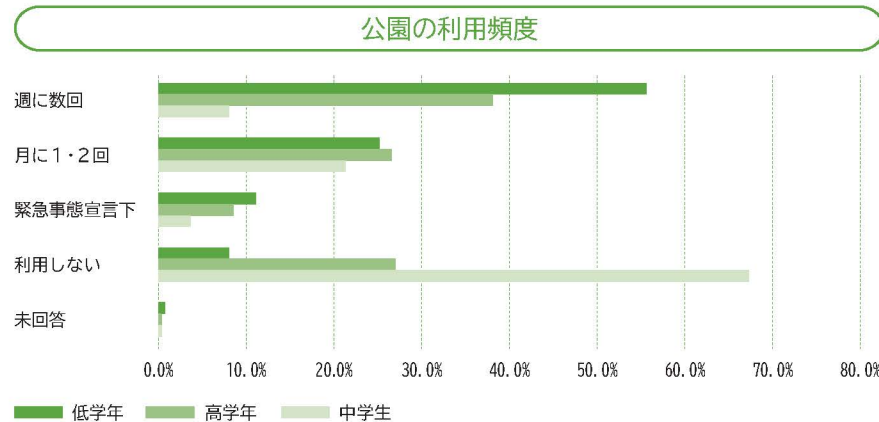


九段坂公園
／眺望の良い場所に設置されたベンチ

(5) 子どもの目線による魅力ある公園づくり

(小中学生へのアンケート調査より)

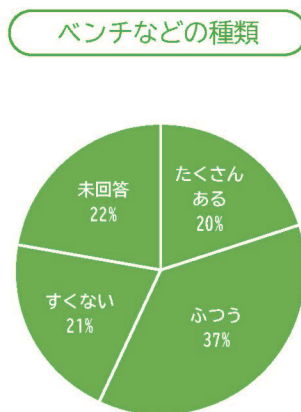
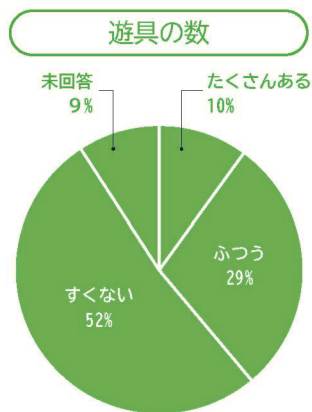
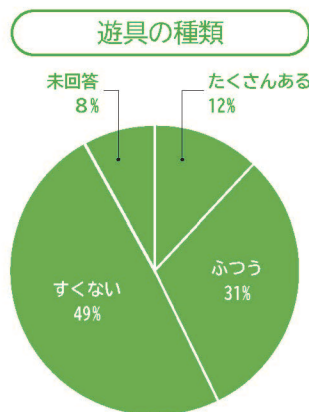
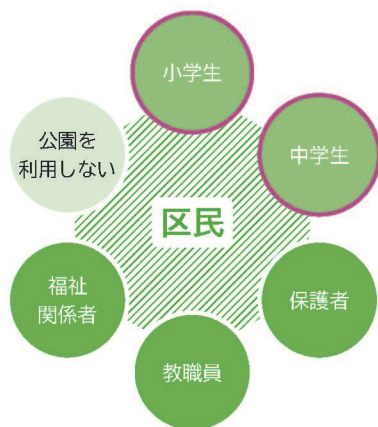
- ・小学校低学年の公園の利用頻度は、「週に数回、月に1・2回」が約81%です。
- ・小学校高学年の公園の利用頻度は、「週に数回、月に1・2回」が約65%です。
- ・中学生の公園の利用頻度は、「週に数回、月に1・2回」が約29%です。
- ・よく行く公園には、「東郷元帥記念公園」、「和泉公園」、「神田児童公園」など小学校と隣接し、広場や複合遊具などの遊び場機能を有している公園が挙げられました。(巻末資料参照)
- ・公園の利用目的は、「遊び」が最も多く、次いで「運動」、「友達とのお話」でした。(巻末資料参照)



遊具で遊ぶ親子と木陰でお喋りする人々

(6) 子どもの公園の満足度 (小中学生へのアンケート調査より)

- ・遊具の種類や数については、「ふつう・すくない」が約80%です。豊富な遊具へのニーズが高いと言えます。
- ・ベンチなどの種類については、「ふつう・すくない」が約58%でした。



主な自由意見

翹町・番町地域

遊具が少ないし、ふれあえる木々や岩や丘もなく、みんなで考えて遊んだりかくれんぼをしたり、楽しく過ごせません。

なにも遊具がない公園が多すぎるし公園に対する不満が沢山ある。

公園のトイレはこわくて使いにくい。

ボールや花火が出来る公園がないから作って欲しい。



神田公園地域

いろんな遊びができる公園や広場があるといいなと思います。ボール遊びやかっこ、鬼ごっこ、遊具など

スケーターで思い切り遊べる広場が欲しい。神田駅の近くに遊具がいっぱいある公園が欲しい。

野球の素振りやキャッチボールが出来ない。遊具が少ない。

ブランコやターザンロープが欲しい。滑り台を長く急にして欲しい。

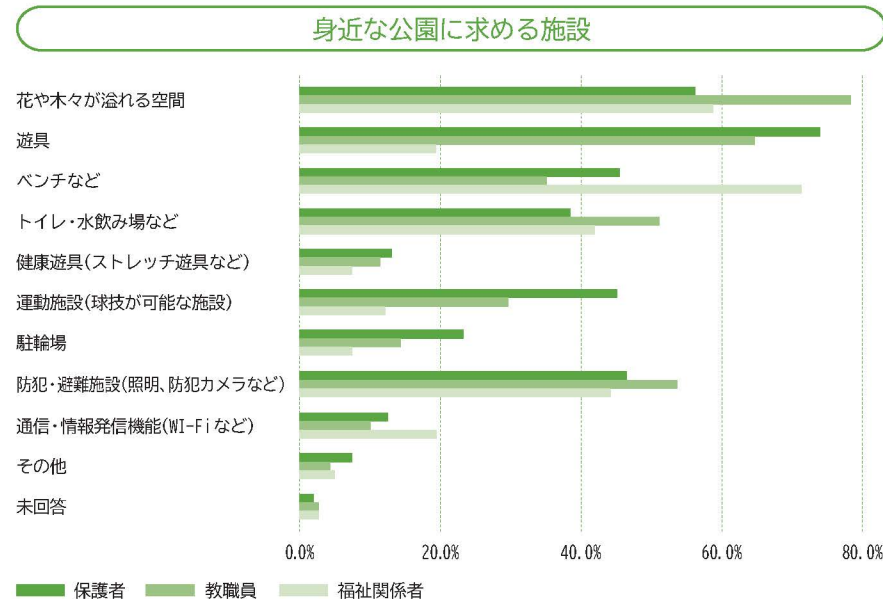
遊んでもいい自然を増やして欲しい！また、広いほうがいい。



(7) 身近な公園にあったらいいなと思う機能や施設（保護者・教職員・福祉関係者へのアンケート調査より）

・身近な公園に求める施設は、保護者では、「遊具」が約74%と最も多く、次いで「花や木々が溢れる空間」でした。教職員では、「花や木々が溢れる空間」が約78%と最も多く、次いで「遊具」でした。福祉関係者では、「ベンチなど」が約71%と最も多く、次いで「花や木々が溢れる空間」でした。

・子どもにどんな遊びや学びをして欲しいかについては、保護者は「遊具での遊び」が約50%と最も多く、次いで「ボールを使った遊び」でした。教職員は「水遊びなど自然とふれあう遊び」が約53%と最も多く、次いで「遊具での遊び」でした。(巻末資料参照)



錦華公園（遊具・木陰のベンチ）



東郷元帥記念公園（水遊びなど自然とふれあう遊び）

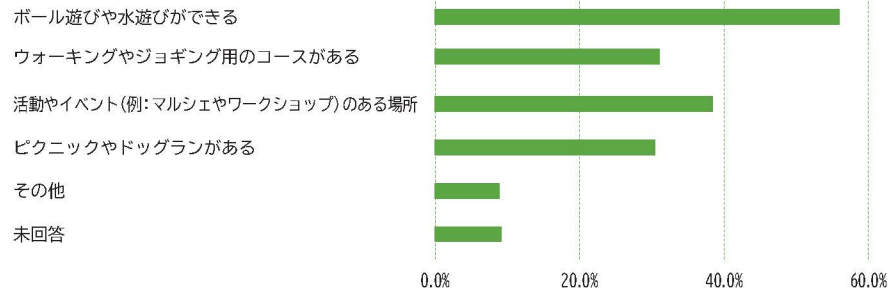
(8) 公園を利用しない人からみた公園の魅力

アップ案(webアンケート調査、
街頭インタビュー調査より)

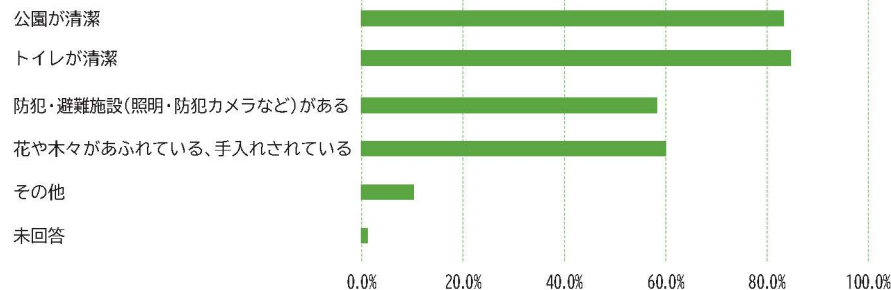
- ・公園を利用しない理由は、「忙しいので行けない」が最も多く、次いで「魅力のある公園がない」でした。(巻末資料参照)
- ・「アクティビティに関する魅力向上のための整備」については、「ボール遊びや水遊び」が約56%と最も多く、次いで「活動やイベント(マルシェやワークショップ)」でした。
- ・「環境・管理に関する魅力向上のための整備」については、「トイレが清潔」が約84%と最も多く、次いで「公園が清潔」でした。



アクティビティに関する魅力向上のための整備



環境・管理に関する魅力向上のための整備



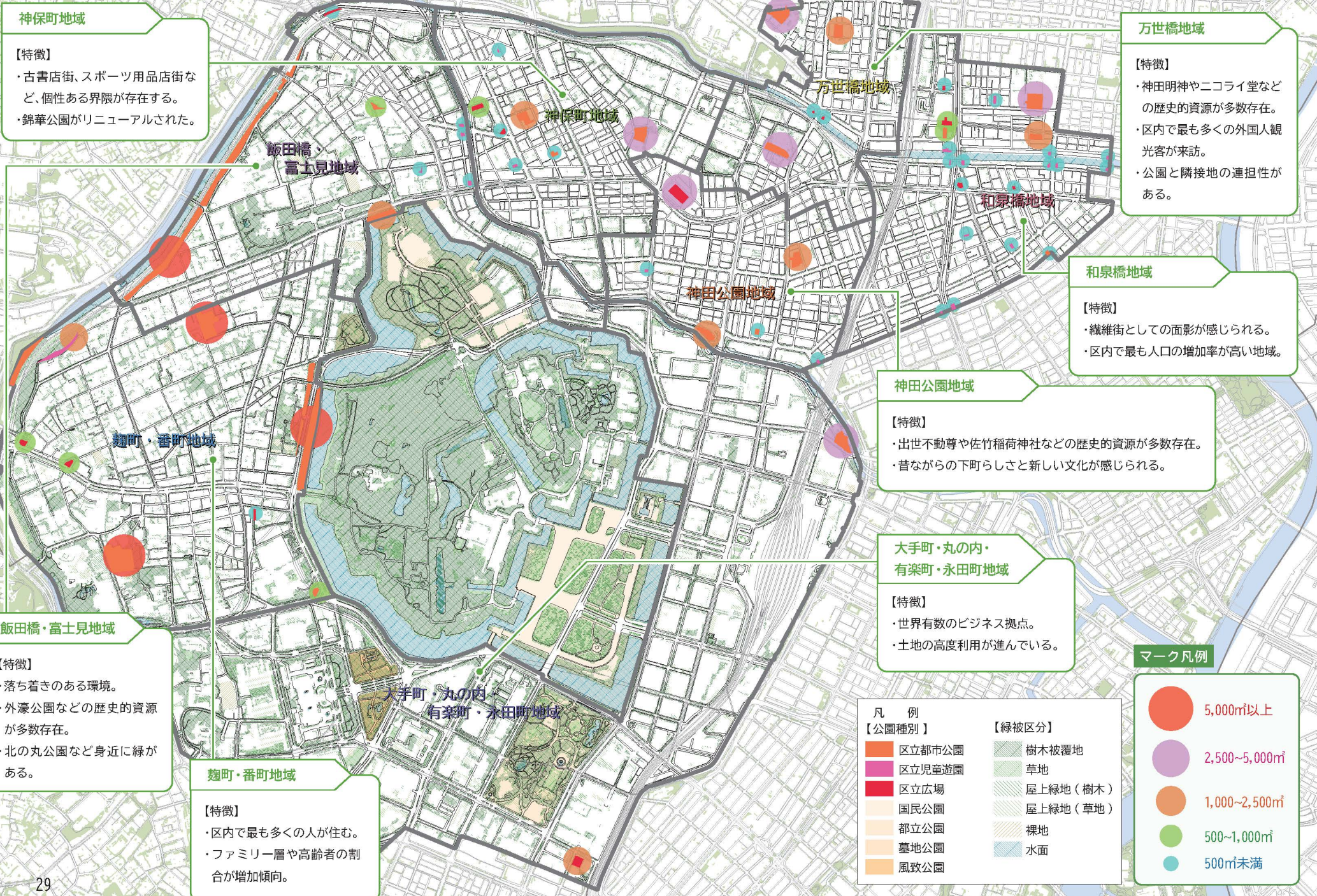
神田児童公園 (水遊びの様子)



東郷元帥記念公園 (イベントの様子)

7. 地域ごとの特徴

公園の現状からそれぞれの特徴を示します。



神保町地域

【特徴】

- 古書店街、スポーツ用品店街など、個性ある界隈が存在する。
- 錦華公園がリニューアルされた。

万世橋地域

【特徴】

- 神田明神やニコライ堂などの歴史的資源が多数存在。
- 区内で最も多くの外国人観光客が来訪。
- 公園と隣接地の連担性がある。

和泉橋地域

【特徴】

- 繊維街としての面影が感じられる。
- 区内で最も人口の増加率が高い地域。

神田公園地域

【特徴】

- 出世不動尊や佐竹稲荷神社などの歴史的資源が多数存在。
- 昔ながらの下町らしさと新しい文化が感じられる。

大手町・丸の内・有楽町・永田町地域

【特徴】

- 世界有数のビジネス拠点。
- 土地の高度利用が進んでいる。

飯田橋・富士見地域

【特徴】

- 落ち着きのある環境。
- 外濠公園などの歴史的資源が多数存在。
- 北の丸公園など身近に緑がある。

麹町・番町地域

【特徴】

- 区内で最も多くの人々が住む。
- ファミリー層や高齢者の割合が増加傾向。

凡例	
【公園種別】	【緑被区分】
区立都市公園	樹木被覆地
区立児童遊園	草地
区立広場	屋上緑地(樹木)
国民公園	屋上緑地(草地)
都立公園	裸地
墓地公園	水面
風致公園	

マーク凡例

5,000㎡以上
2,500~5,000㎡
1,000~2,500㎡
500~1,000㎡
500㎡未満

8. 公園をより良くするための4つの視点

公園をより良くするため、これまでに現状分析した結果から4つの視点に整理します。

視点

1

多様化する区民ニーズの実現

- ・遊具の種類や数、ボール遊びや花火などのニーズがあります。
- ・祭事などイベント利用のニーズがあります。
- ・多様な区民ニーズを捉えながら、柔軟な運用に向けた公園づくりが重要です。

視点

2

ポテンシャルの有効活用

- ・江戸の文化と近代の機能が融合し、都心の風格と心地よい環境を継承しています。
- ・魅力ある公園を将来に引き継ぐため、伝統文化の発信に加え、環境の保全に配慮した整備が重要です。
- ・利用者が場所や時間によって変化すること、昼間人口比率が高いことを踏まえた公園づくりが重要です。

視点

3

すべての人が使いやすい公園

- ・少子高齢化や多国籍化が進む中、千代田区の人口は増加しています。
- ・遊具の種類や数について「満足」を増やせる余地があります。
- ・高齢者や障がい者が使いやすい公園への改善が必要です。

視点

4

様々な主体との連携

- ・地域住民、民間企業などとの緊密な連携が公園づくりの重要なテーマとなっています。
- ・地域住民と使い方を話し合い、安全で快適な公園づくりを推進することが重要です。
- ・一人当たりの公園面積が少ないため、公開空地などとの連携が重要です。



点在する歴史資源



充実した遊具



アダプトシステムによる草花の管理

コラム 「すべての人が使いやすい公園」とは・・・

昨今の公園整備では、「インクルーシブ遊具」に代表されるように「インクルーシブ」な公園づくりが求められています。

千代田区の公園づくりにおけるインクルーシブとは、「様々な利用者に寄り添う」という意味を持っています。利用者とは、子ども、高齢者、障がい者を含むすべての人が対象です。インクルーシブ遊具の導入をはじめとし、園路に段差のない整備や手すりの設置など様々な手法が考えられます。

千代田区では、公園を利用する方の多様性を尊重し、様々な状況を持つ人々のニーズに応え、積極的に区民の声を取り入れながら「すべての人が使いやすい公園」づくりを目指します。



VISION FOR PARK DEVELOPMENT

